

編集： 山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: [mickeyy@pc4.so-net.ne.jp](mailto:mickeyy@pc4.so-net.ne.jp) URL: <http://www.sanchai.net>

## 男の子なら「マリオ」、女の子なら「すみれ」？

美澄ママご懐妊

「ボク、赤ちゃんが欲しいな」——という樹生の声が天に届いたか、美澄ママ、3人目の妊娠が3月下旬に確認された。11月下旬の出産予定で、つまりはパパの世界銀行での契約が切れて10月中旬に本帰国した後の最初のイベントがママの出産ということになる。任期終了、帰国の慌しい中での出産である。どうせなら任期終了前に産んで末子にアメリカ国籍を取得させるという手もあった筈なのだが、その辺は、パパの無計画人生の一側面がもろに出てしまった感じである。これで、パパが還暦を迎えるまで末っ子が成人しないことになる。

今のところは順調のようで、ママは赤ん坊に体力を吸い取られて毎日「疲れた」「腰が痛い」「気持ち悪い」「お腹が痛い」など不調を訴えている。性別まではわかっていないけれども、昔ネパール時代に覚えた「ヘソ占い」によると男の子らしい。樹生と千智を相手にするだけでもヘトヘトのパパは、できれば三人目は女の子にして欲しいと密かに思っているのだが…少しずつ樹生と千智にお兄ちゃん、お姉ちゃんの内省を促すよう指導はしているものの、「赤ちゃんが生まれたらどうやってママのお手伝いをするのか」との質問に対して「赤ちゃんを撫で撫でてあげる」と無邪気に答えるお兄ちゃんを見ていると、やっぱり先が思いやられる。

どんな名前がいいかとお兄ちゃん、お姉ちゃんに尋ねると、男の子なら「マリオ」、女の子なら「すみれ」だという。「マリオ」は任天堂ゲームボーイの有名キャラクター、「すみれ」は、千智が生まれた時、名前候補第一位だったが、樹生の時と違って字画も見ずに安易に決めては赤ん坊に失礼だという美澄の言葉もあって、結局「千智」と名付けた。以来、「すみれ」は、千智の持っている赤ん坊のオモチャに付けた名前となっている。まあ、これから半年、ゆっくり考えていきたい。



## パパ&ママ、息子に負ける

## 恐るべし樹生の記憶力

4月中旬、単身で旅行に来られた三鷹の父を案内して、ルイジアナ州ニューオーリンズに出かけた際、帰りの飛行機の中で読んだ日本の雑誌の中で、1つの記事に目を引かれた。囲碁の山下敬吾棋聖が少年時代をどう送ったかが紹介された記事である。山下棋聖は、4歳で囲碁に出会う前にオセロやトランプ、そして後には百人一首も取り入れ、家族でゲームを楽しむ家庭だったのだそうだ。ゲームを次々に取り入れた父親は、「子供の成長には学ぶことだけでなく、遊びも同じほど大切です。夢中になれて没頭できるものなら何でもいい。勝負事なら勝ってうれしく、うれしい感情は生きる喜びと同質ではないかと



思う」と語っている。

単純にもこれに感銘を受けたパパは、早速トランプとオセロ・ゲームを購入して、さっそく樹生とゲームを開始した。まずはトランプで、始めたゲームは「神経衰弱」である。自分が子供の頃、多分小学生の頃だと思うが、冬になるとコタツの台の上に裏返し of トランプ・カードを広げて、みかんを頬張りながら母と「神経衰弱」をして遊んだ。そんな記憶を思い出しながら、樹生にゲームのルールを教え始めた。そして気付いたことが2つある。第一に、昔と違って、パパはカードの位置が5枚以上記憶できなくなってきた。自分の記憶力はかなり衰えたのがよくわかる。特に、カードが多い序盤は、目がチカチカして集中することが難しい。そして第二に、樹生の記憶力が異常に良いことがわかった。樹生は逆に10枚

近いカードの位置をしっかりと覚えていて、未だテーブルの上のカードの枚数が多い序盤から同じ数字のカードを次々と当ててゆく。

最初は少し手加減していたパパも、今は手を抜くと簡単に樹生に足元をすくわれるようになってしまった。残っているカードが多い序盤は樹生に散々リードを許し、残り枚数が減ってきた終盤に連続してカードを取り、辛うじて面目を保っているといった状態だ。ましてやパパ以上に記憶力の悪いママは、既に赤子の手をひねられるが如くで、樹生には全く歯が立たない。千智も時々参戦し、1組くらいは当てるようになりつつある。

スキー、スケート、それにカードゲームと、徐々に子供にかなわない種目が増えてゆく。嬉しい気持ちもある一方で、なんだか寂しい気もする。朝のNHKのニュースだけを見て、ヤンキースの背番号55は松井だと既に認識しているし、野球観戦に行くというのにボルチモアを通り過ぎてニューヨークに向かおうとすると「野球を見に行く場所がいつもと違う」としっかり指摘する。ましてや普段何気なく見せていた米軍のイラク攻撃の報道にも、「ねえ、何で戦ってるの?」と尋ねてくる。もはや、新しい出来事をどんどん記憶して物事を考えてゆける1人の人間だ。小手先の「だまし」など通用しない。我々も、1人の人間として樹生と対峙せねばならないのだと痛感させられる。

## SARSに負けるな、アメリカ満喫10日間の旅

### 三鷹のお爺ちゃん来訪



新型肺炎(SARS)が東アジアで猛威を振るい始め、一時は渡航も危ぶまれた三鷹の父だったが、4月10日から20日まで、当初計画通りなんとか私達を訪問して下さった。父には昨年来訪問先の希望を聞いていて、大リーグの試合を2試合、ニューヨークとボルチモアで観戦し、さらにニューオリンズにも2泊3日に出かけて本場のディクシーランド・ジャズを堪能していただくツアーを計画した。さらに、お酒好きであることにも配慮して、バージニアとニューオリンズで地ビールのビア・パブに案内した。そして、そんな中にも私達の趣味を少し入れさせていただき、ペンシルベニアの鉄道ツアーやゲティスバーグ古戦場、ミシシッピ・リバーロードの大邸宅巡り等を盛り込んで、

相当充実した日程を組むことができた。

孫達は、お爺ちゃんが持って来た日本からのお土産に大興奮だ。特に、お爺ちゃんの滞在中ずっとイースター（復活祭）で学校が休みだった樹生は、お爺ちゃんがワシントンで訪問する先々に同行して新たなオモチャを買ってもらい、さらにさらに大満足だった。ニューヨークの試合は、お目当ての松井のサヨナラ・ヒットでヤンキースが勝ち、ボルチモアの試合は、地元オリオールズの完敗ペースだったのが9回裏の攻撃であわや一発逆転というところまで反撃したので、地元観衆の盛り上がりをご覧いただくことができた。

## 浩司パパ、不惑の前に鼻水チュルン・・・ とうとう花粉症に罹る

三鷹の父がワシントンを発って帰国の途につかれた直後、気が抜けたパパはなぜか体が重く感じていた。至れり尽せりの10日間の余韻に浸りながら翌週を迎えたはいいが、火曜日の朝になって咳と鼻水が止まらなくなり、かなりひどい悪寒もあったので、大事をとって仕事を休んだ。気温30℃近かったニューオリンズから、雨で気温が5℃を下回っていたワシントンに帰って来たため、温度差で風邪をひいたのかと最初は思った。しかし、その後も体調はいっこうに持ち直す気配がなく、既に2週間が経過しているにも関わらず、いまだに鼻水と咳、くしゃみ、喉の痛みに苦しんでいる。目がしょぼつきパソコンの画面を長時間見るのも辛い。どうやらこれは花粉症のような気がする。

考えてみれば、毎朝出勤するために車に近付くと、フロントガラス一面にびっしりと黄色っぽい粉が付いている。ワシントンも春から夏への移り変わりの時期で、各家のさつきが赤、ピンク、白といろいろな色で咲き乱れている。1年を通じて最も多くの花が咲く時期だ。スギの花粉はどうかはわからないが、少なくとも満開の花の花粉は飛びまくっている。花粉症にならない保証はないのだ。

咳き込んだり鼻をかんだりを頻繁に繰り返すパパを見て、職場の同僚が近寄ってくれなくなった。新型コロナウイルス（SARS）だとでも思っているのだろうか。パパは東アジアには行ってないのに！これから毎年この季節にはくしゃみと鼻水に悩まされるのかと思うと、暗澹たる気持ちになる。体がフラフラで仕事にも集中できず、運動するにも体力が大幅に低下している。本当に辛い。

## 編集後記～山田家短信

- 最近、夫婦揃って体調不良を訴えています。美澄の方は明らかに妊娠初期の症状で、「気持ち悪い」「腰が痛い」「げっぷがよく出る」「疲れた」と連発しています。浩司の方は風邪だかアレルギー性鼻炎だかわからない症状で、3週間以上苦しんでいます。
- そんな中でも子供達は元気満々。千智はこの冬から続けてきたバレエのクラスの成果を、時々場所を選ばず披露してくれます。自宅内ならまだしも、レストランの待合ロビーとか、ショッピングの合間とかに他のお客さんも多い中で踊ってくれるので、親としては恥ずかしくなります。樹生の方は、アイス・スケートを4ヶ月練習してきました。片足で滑るところまでは到達していませんが、パパよりはるかに上手に滑ります。そして、3月後半からはティー・ボールにも挑戦しています。ルールは野球と同じですが、ホームベース上に設置したティーに乗せたボールを打つのです。最初は振ったバットにボールが当たらないとすねたり、グラブを構えたところにパパがボールを上手く投げ込まないと言ってはご機嫌を損ねた樹生ですが、クラブの試合には喜んで参加してくれます。週2回ながら、このところ雨で試合が流れることが多くて困っています。
- 美澄の北欧式マッサージも、静かに開業いたしました。相変わらず営業時間と合わないというので私はその恩恵にあずかっておりませんが、10月に本帰国するまで、細々とでも勤と知識とノウハウを忘れない程度にでもお客を取って続けられればと思っています。（以上、浩司より）

パパの体重

85 kg

(5月19日現在)